【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成20年11月20日(2008.11.20)

【公開番号】特開2007-15398(P2007-15398A)
【公開日】平成19年1月25日(2007.1.25)
【年通号数】公開・登録公報2007-003
【出願番号】特願2006-284134(P2006-284134)
【国際特許分類】
Ｂ２９Ｃ　45/00　　(2006.01)
Ｂ２９Ｋ 105/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ２９Ｃ　45/00
Ｂ２９Ｋ 105:04

【誤訳訂正書】
【提出日】平成20年9月30日(2008.9.30)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００９９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００９９】
【表１】

射出速度 (”／秒)	気泡 (ミクロン)	発泡剤 (%)	重量減少 (%)	図
１１	気泡なし	１１．９	１１	１０
3	１００	１１．９	１１	１１
4	１０	１１．９	１９	１２
2	１０	１１．９	１８	１３
1	３０	１１．９	１２	－

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５９】
別の態様では、系30のスクリュー38は往復スクリューであり、系は、射出成形系を画定する。この態様において、スクリュー38は、バレル32内で往復するように据え付けられ、バレル32に沿って軸方向に配置された複数の発泡剤入口または導入ポート54、55、57、59及び61を含み、各々、圧力及び計量装置58と発泡剤源56に流動的にバレル32を接続している。各導入ポート54、55、57、59及び61は、各々機械的遮断弁154、155、157、159及び161を含むことができ、これにより、バレル内の往復スクリュー38の軸の位置の関数として押出機バレル38への発泡剤の流れを制御することができる。操作時、本態様により、流動

ポリマー材料と発泡剤の充填物(態様によっては、単相の非-核形成化充填物であってもよい)を、スクリュー38の下流端部48の下流の領域50に集積する。スクリュー38をバレル32の遠位方向(下流)に押し、領域50の充填物を金型37に射出させる。次いで、金型37のオリフィス70近辺に配置されている機械的遮断弁64を閉鎖し、金型37を開けて射出成形部品を取り出す。次いで、スクリュー38を近位方向(バレルの上流端部34に向かって)に後退させながら回転させ、遮断弁161を開けて、遮断弁155、157、154及び159を全て閉め、発泡剤を、最遠位ポート61だけを通してバレル内へ導入させる。バレルが回転しながら後退するに連れて、遮断弁161を閉めて遮断弁159を開け、次いで弁159を閉めて弁154を開けたりする。即ち、バレル32に源56から発泡剤の導入を制御する遮断弁は、スクリュー38が近位方向に後退するに連れて、発泡剤の導入場所がバレルに沿って近位方向(上流方向)に移動するように、制御する。これによって、スクリュー38に沿った位置での発泡剤の導入は、本質的に一定に維持される。このようにして、発泡剤を流動ポリマー材料に添加し、ポリマー材料と一緒に、バレル内のスクリュー38の位置とは一貫して無関係な時間及び程度まで混合する。この目的のため、１つ以上の遮断弁155、157などを、開いている射出ポート間をスムースに移動できるように、且つバレル38に沿って発泡剤を本質的に一定の場所に導入できるように、同時に開けたりまたは少なくとも部分的に開けることができる。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６０】
一度バレル38が完全に後退したら(発泡剤は、最近では導入ポート55だけ介して導入した)、全ての発泡剤遮断弁を閉じる。この時点で、バレルの遠位領域50内には、本質的に均一な流動ポリマー材料/発泡剤混合物がある。次いで、遮断弁64を開け、スクリュー38を遠位方向へ急いで動かしてポリマー材料と発泡剤の充填物を金型37に射出する。